

マウスピース矯正を始める前に知っておきたい3つのデメリット

マウスピース矯正は、1998年頃から急速に普及した新しい矯正法です。透明なマウスピースを口にはめるだけという手軽さから、近年注目されています。ただし、本当にマウスピースで歯ならびがキレイになるのか、心配な方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、マウスピース矯正の3つのデメリットとその対処法をご説明します。

■ デメリット1 マウスピースの使用時間は1日20時間以上

マウスピース矯正は、高度にシミュレーションされたマウスピースを使って歯を動かす繊細な治療です。食事や歯磨きを除き、マウスピースは1日20時間以上つけておく必要があります。マウスピースは自分で取り外して使用するため、指定された時間通りに使用しなければ、動かした歯が戻ってしまいキレイに揃わなかったり、治療期間が長引いてしまったりすることがあります（ワイヤー矯正では何もしなくても1日24時間の矯正力がかかります）。手軽にできる矯正ではありますが、根気が必要とされる矯正法ともいえます。

〈対処法〉

東京審美会では、マウスピースを決められた時間使用し、決められた期間で交換する「手間」を惜しまない方、自己管理ができる方にマウスピース矯正をオススメしております。せっかく治療するのであれば、出来るだけ早く、そして確実にキレイな歯ならびを手に入れるべきです。もしマウスピース装着のルールを守れる自信がない場合は、ほかの治療法（ワイヤー矯正など）を検討するのも一つの手段だといえます。

■ デメリット2 マウスピースだけでは歯ならびがキレイに揃わないケースがある

マウスピース矯正は、歯に作用させる力に制約があるため歯の移動は歯の傾斜に頼る割合が高くなり、歯根の方向までをきれいに揃える力を加えることが難しいため、歯の移動距離を長くとることが比較的困難です。また歯を上下方向に移動させることが難しい場合もあるため、奥歯までしっかり噛み合わせができないこともあります。

〈対処法〉

東京審美会では、歯根の位置や傾きをほとんど修正しなくてもいい非抜歯症例の矯正や、大白歯の移動の必要がない叢生などの場合に、特にマウスピース矯正をオススメしています。また奥歯を大きく動かす必要がある場合にはワイヤー矯正と併用することで、妥協のない美しい歯ならびと理想的な噛み合わせを実現します。

■ デメリット 3 治療後の修正が難しく、不便な点が多い

マウスピース矯正は、コンピューターグラフィックスにより歯をどのように動かすかシミュレーションし、その治療計画に沿って 2~3 週間ごとにマウスピースを交換しながら歯ならびを矯正するものです。マウスピースの数は 10~20 個、症状によってはそれ以上になることもあるのですが、これらは最初に全セット作成して、ご購入いただくかなくてはなりません。中断しても費用は全額かかってしまう、一時的に中断して歯ならびが予定のコースから外れてしまうと改めて全セットの再作成をアメリカに発注する必要があるなど、不便な面も存在しています。

〈対処法〉

マウスピース矯正は、どこの歯科医院でも同じ治療結果が得られるわけではありません。実はドクターのスキルに大きく左右されます。コンピューターのシミュレーションを修正し、いかに治療期間を短くするか、無理のない歯の移動にするか。こうした判断をするのは、各医院のドクターだからです。東京審美会には、矯正専門医院として幅広い矯正治療の実績と世界トップクラスの技術があります。患者さまのご希望や、お口の中の噛み合わせの状態、矯正精密検査の結果からマウスピース矯正の適否を含めて、事前に細かな仕上がりのお話をさせていただき、患者さまに最適な治療計画を立案することができます。